

# 東京都立 多摩総合医療センター

## 事務局長着任のご挨拶

多摩総合医療センター事務局長 片岡 容子

7月1日付の人事異動により、事務局長を拝命いたしました。 当院の運営につきましては、近隣医師会の先生方をはじめ、医療関係機関の皆様方には、日頃よりご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

私、前職では、総務局で被災地の復興支援などに取り組んでおりましたが、実は、10年前の管理職としての振出しが、23区内にある都立病院の医事課長でした。私が病院で勤務するのは3回目であり、今回、多少の土地勘はあるのでは、とって着任したのですが、病院を取り巻く環境は、急激に変化していることを痛感しています。例えば、10年ほど前、都立病院ではDPCの導入が大きな課題となっていたところを、今では当院を含む、多くの病院で既に7年前前から対象病院となり、当然のように運用されています。まるで過去からタイムマシンに乗ってきたような感覚にとらわれることもあります。

一方、当時、地域の医療機関の皆様と顔の見える関係を構築しようと、研修会や懇親会等に取り組んでいた記憶も深く刻まれておまして、そういった関係を築くことが大事な点については、以前も今も大きく変わらないのではないかと考えております。

今後、一から学ぶつもりで、一生懸命勉強しつつ、役目を果たして行きたいと存じますので、どうぞご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

当院は、救急医療、がん医療、周産期医療の三本柱として、多摩地域における、総合的な医療機能を持つ唯一の都立病院として、多摩地域に高度専門医療を提供することを使命としています。

現在、当初予想された以上に、入院、外来ともに患者さんが多く集まり、予約が入るまでお時間をいただいている状況もあります。また、10月からは、特定病院非紹介患者初診加算料が新設され、紹介状をお持ちでない患者さんに、医科5000円、歯科3000円の負担をしていただくこととなります。そのため、この機を捉え現在、「ふたり主治医」というキャッチフレーズで、近所でかかりつけの先生を持っていただくことを患者さんにチラシやポスター等で、お願いしております。

効率よい病床運営にも引き続き努力しているところですので、近隣の医療機関のご理解を賜りたいと存じます。

これからも、顔の見える関係を築いていきたいと思っております（9月には連携医交流会もごさいます！）。今後ともより一層のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



# 呼吸器外科(胸部外科)のご紹介

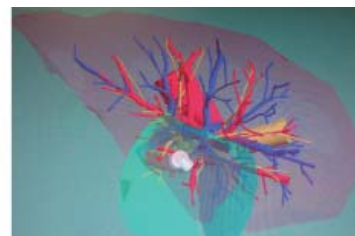
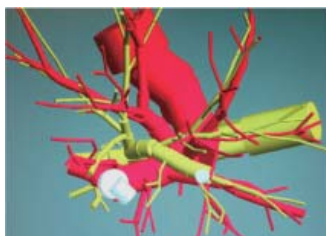
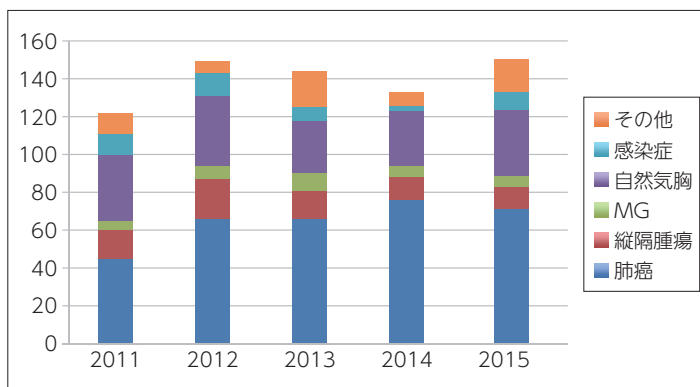


呼吸器外科部長 小原 徹也

いつもお世話になっております。当科は昭和45年に旧都立府中病院開設以来呼吸器科の外科部門として周辺医療機関の先生方にご利用いただけてきました。かつては結核などの肺感染症が治療の中心でしたが、現在では年間約150例の手術症例の約半数を肺癌が占めています。

## 1. 肺癌

年間約70例の原発性および転移性肺癌に対して約90%を胸腔鏡下手術で行っていますが、最近では早期肺癌に対して3D-CTによる術前シミュレーションを用いた精密区域切除術を行い肺機能の温存を図っています。術後5年間のフォローは全て当科で行い再発時は抗癌剤投与や放射線照射を行います。手術適応のありそうな肺癌疑いの患者さんは当科外来へぜひご紹介下さい。



## 2. 自然気胸

若年者に多い疾患で年間約40例の胸腔鏡下手術を行っています。お急ぎの場合は救急外来(ER)で当科または呼吸器内科が対応いたします。

## 3. 縦隔腫瘍

胸腺腫・神経鞘腫・気管支嚢胞などの良性腫瘍を胸腔鏡下手術で摘出しています。

## 4. 肺感染症・膿胸

従来当科の手術対象の中心だった疾患ですが、最近では薬剤耐性肺結核や非結核性抗酸菌症が増加しています。また肺アスペルギルス症や慢性膿胸に対する術式は当院独自のもので周辺医療機関よりご紹介をいただいております。

## 5. 重症筋無力症

隣接する都立神経病院とタイアップして過去約250例の手術を行っており国内でも有数の実績があります。当科で拡大胸腺全摘術を施行後に神経病院で内服治療を行います。最近では免疫抑制剤の導入により術後成績が改善されています。

当院はがん拠点病院である一方、多摩地区の救急や結核治療の拠点でもあるため、手術の対象疾患は肺癌のみならず多岐にわたっているのが特徴です。これからも地域に根ざした診療を推進して参りますので引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。





## 最近経験した高齢者多発性骨髄腫三症例

血液内科医長 山田 一成



私、都立府中病院退職後に米国留学3年、九州赴任4年を経てこの4月多摩総合医療センターに着任しました。これまでの様々な経験を生かして診療と後進指導を行う所存です。当科も通常診療体制に戻りました。今後益々ご指導賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

**【症例1】**79歳女性。主訴は腰痛。家庭医で腰椎圧迫骨折と貧血、M蛋白血症を指摘された。IgA 7558、Hb7.7、腎障害なくMM IgA- $\kappa$  stage III<sub>A</sub>と診断しBD療法(ボルテゾミブ皮下注、デキサメタゾン内服)を開始、5コース後にIgA 40へ減少しHb10へ回復、8コース後に電気泳動でM蛋白が消失した。その後Ld療法(レナリドミド、デキサメサゾン内服)で完全奏功を維持している。

**【症例2】**74歳男性。MM IgG- $\kappa$ の診断でBD療法を開始したが5コースで自己中断しその後再発した。血清KL6高値よりボルテゾミブによる間質性肺炎を疑いLd療法へ変更したが好中球減少遷延のためBD療法へ戻し12コース行った。手指しびれのためPd療法(ポマリドミド、デキサメサゾン内服)へ変更したところ血清M蛋白が消失し、良好な部分奏功を維持している。

**【症例3】**75歳女性。主訴は両下肢不全麻痺、眼瞼下垂。前医で胸椎と頭蓋内に形質細胞腫を認め脊椎放射線照射による麻痺改善後に当科へ転院した。IgG 2800、軽鎖 $\kappa/\lambda$ 比は正常、骨髄の形質細胞10%未満で腎障害なし。多発性溶骨性病変よりMM IgG- $\kappa$  stage III<sub>A</sub>と診断しBD療法8コース施行、眼瞼下垂は速やかに消失した。その後左上腕骨病的骨折を併発、手術後IgG 4173へ増加し再燃した。Ld療法は不応性でありPd療法によりIgG 1000台の部分奏功を維持している。

多発性骨髄腫の治療は21世紀に入りプロテアソーム阻害剤(ボルテゾミブ)、免疫調整薬(レナリドミド、ポマリドミド)、HDAC阻害剤等の登場により様変わりし、特に造血幹細胞移植非適応である65歳以上の顕著な治療成績向上が報告されています。当科では抗腫瘍効果と腎機能改善効果を持つBD療法を治療の第一選択にし、65歳未満には根治を目標とした自家造血幹細胞移植療法を積極的に行っています。高齢者には上記薬剤を使用し腫瘍量減少を目指しつつ重篤な感染症や末梢神経障害、臓器障害、骨病変、疼痛など様々な合併症への対処が必要になります(表)。今後登場する新たな抗体薬などの組み合わせにより、合併症のより少ない抗腫瘍効果の大きな治療法の開発が期待されます。

<抗腫瘍治療>	<感染予防・治療>	<骨病変治療>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆抗癌剤(化学療法)</li> <li>・プロテアソーム阻害剤</li> <li>ステロイド併用</li> <li>・免疫調整薬</li> <li>・HDAC阻害剤</li> <li>◆腫瘍特異的抗体薬</li> <li>◆自家造血細胞移植併用</li> <li>大量化学療法(65歳未満)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>細菌、真菌</li> <li>ウイルス感染</li> </ul> <p>&lt;腎など臓器障害治療&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>軽鎖による障害</li> <li>アミロイドーシス</li> </ul> <p>&lt;薬剤有害事象治療&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>間質性肺炎</li> <li>末梢神経障害</li> <li>糖尿病など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆骨吸収抑制薬</li> <li>・ビスホスホネート剤</li> <li>・RANKL抗体薬(骨質壊死予防)</li> </ul> <p>&lt;疼痛緩和治療&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆鎮痛薬</li> <li>◆装具</li> <li>◆放射線療法</li> </ul>

## 都立多摩総合医療センター ● 人事異動

**【採用】**平成28年7月1日付

精神神経科部長  
皮膚科医長  
泌尿器科医員  
産婦人科医員  
産婦人科医員  
産婦人科医員  
産婦人科医員

山本 直樹  
西脇 薫  
吉崎 宇蘭  
稲垣 聖子  
大城 早紀子  
齋藤 茉祐子  
安井 理

**【採用】**平成28年8月1日付

脳神経外科医員

酒井 優

**【転出】**平成28年6月30日付

精神神経科部長

成島 健二

**【退職】**平成28年6月19日付

産婦人科医員

後藤 亮子

**【退職】**平成28年6月30日付

皮膚科部長

加藤 雪彦

麻酔科医長

白田 岩男

**【退職】**平成28年7月31日付

歯科口腔外科医長

西堀 陽平

脳神経外科医員

有澤 慶

麻酔科医員

佐藤 玲華





## 紹介状をお持ちでない患者さんの加算料が新設されます

国の法令改正に伴い、平成28年10月1日より、「紹介状」をお持ちでない初診患者さんは、特定病院非紹介患者初診加算料 5,000円(歯科は3,000円)をご負担いただきます。

また、当院からかかりつけ医へ紹介後に、紹介した疾患について患者さんの希望・選択で再び当院を受診した場合は、特定病院非紹介患者再診加算料2,500円(歯科は1,500円)をご負担いただきます。

今後とも紹介・逆紹介のより一層の推進にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## ●● 各種講習会・勉強会のご案内(医療従事者向け) ●●

### 連携医交流会

平成28年9月15日(木) 午後7時～午後9時 講堂フォレスト・職員ラウンジ  
会費：4,000円 ※9月8日(木)までに医療連携担当までご連絡をお願いいたします。

### 医療連携臨床懇話会

平成28年10月20日(木) 午後7時～午後9時 講堂フォレスト

- 「糖尿病・高血圧と腎臓病」 腎臓内科 医長 紀平 裕美
- 「尿路結石について」 泌尿器科 部長 長瀬 泰

※演題等に変更がある場合がございます。詳細は別途ご案内いたします。

### 公開C P C 各日とも午後6時～午後7時 4階401会議室

平成28年9月15日(木)、平成28年10月20日(木)、平成28年11月17日(木)

## ●● 各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け) ●●

※参加無料、事前予約不要です

### 糖尿病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

- 「糖尿病の内服薬」「糖尿病の運動療法」「嗜好品等について」  
日時：平成28年9月21日(水) 午後2時から午後4時
- 「メタボリック・シンドローム」「血液検査について」「動脈硬化と食事」  
日時：平成28年10月19日(水) 午後2時から午後4時
- 「糖尿病と高血圧」「糖尿病の入院について」「減塩方法の実際」  
日時：平成28年11月16日(水) 午後2時から午後4時

### 腎臓病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

日時：平成28年10月25日(火) 午後2時から午後4時

当院は原則として、**紹介予約制**です。  
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、  
紹介状をお願い致します。

### <電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL：042-323-9200

ご意見、ご投稿、お問い合わせは  
医療連携担当(内線2171)まで

### <FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX：042-323-9205

## 緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話：042-323-5111から、①平日の午前9時～午後5時は「〇〇科責任医師」、②午後5時以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおりませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しください。

東京都立多摩総合医療センター 〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29  
TEL 042-323-5111(代表)

